

## 温故知新 昭和40年台に学ぶ【社会人編】

団塊の世代が社会で活躍を始めた昭和40年代。働く大人はどんな日々を過ごしていたのか

### 酒とバラの日々 in 高円寺



サクセス・白庄司孝

「東京はええぞ。」この時すでに売れっ子の友人、ブルースハープの第一人者妹尾隆一郎に半ばそそのかされ、サクセス奏者の私は京都から上京してきました。昭和48年の夏の事です。ボーカリストの仲間と横浜に部屋を借りましたが、演奏しては朝まで飲み明かす毎日だったので、ほとんど家には帰らず、6年後高円寺に引っ越すまではライブハウス近辺の友人宅を転々とする暮らしをしていました。当時は東京でもライブハウスは少なく、地方に演奏旅行に行く事がしばしばです。地方ではライブハウスのマスターやお客さんがご馳走してくれるので、お金が無くても食べ物には困りませんでした。旅行を終えて戻ると食べ物を買うことも大変だったのを覚えています。高円寺の「丸十ヒロセ」でパンの耳を安く大量に買ってお腹を満たしたり、「ニューバーグ」や中華の「大陸」にもよく行きました。高円寺は若者が住みやすい街でした。

今でもこの辺りの音楽事情はさほど大きく変化していないと感じますが、音楽を志す者の環境は大きく変わりました。私達は雑誌やジャケット写真などの、ほんのわずかに得られる情報の中で、ひたすら『音』から音楽を学びました。何度も繰り返し針を置く好きなレコードは磨り減って聞く事ができなくなります。私がこだわってきた1音への集中力・その説得力を育んだものは、1枚のレコードが貴重品だったあの日々の中にあるのかもしれない。

投稿：白庄司孝

(昭和48年・当時24歳)

一掲載日・2011年9月30日

### 高度経済成長とブルーのYシャツ



よく飲みに行っていた「ピカソ」。(シャツとグラスはイメージです)

毎朝満員の丸ノ内線に乗って、都心へ通勤していました。あの頃まだエアコンがついてなくて、夏はとんでもなく暑い車内でした。

昭和40年当時は土曜日でも働くのが普通で、「半ドン」(午前中だけ働くこと)でした。とにかく忙しかったのですが、若くて希望に燃えていた20代でしたから、会社に行くのが楽しくて仕方なかったのです。

そんな中でもお洒落にはかなり興味があって、着るものにこだわりがありました。当時、まだサラリーマンは白いYシャツを着るのが当然で、カラーのYシャツはせいぜいブルーが出始めた頃でした。日本橋のYシャツ店(当時はYシャツの専門店が普通にありました。)で格好いいブルーのYシャツを買って会社に着て行くと、上司から

「那須君、会社に色物のYシャツを着てくるとは何事か！ そんなのは遊びの服だろう！ 白を着てこい！」

と注意されてしまいました。しかし私も意地になってブルーのYシャツを着続けました。会社帰りに高円寺へ飲みに行くと、店にいるお客から随分注目を浴びました。お店のママさんからも「センスいいわね！」とお世辞を言われました。そのうち会社でも周りの若い社員にブルーのYシャツを着る人が増え始めました。まさに時代が変わり始めていたのでしょ

う、段々とカラーのYシャツをサラリーマンが着ることもおかしくない世の中になって行きました。あれから随分たちましたが、今でもずっとお洒落心を持ち続けている私です。

投稿：那須克彦

(昭和40～42年・当時24～25歳)

一掲載日・2011年9月15日

### 何もかもが急成長な時代



昭和39年と40年の賞と明細。カメラは学生時代からずっと大事にしているもの

昭和41年に結婚して、42年に長男が誕生したのを始め、3人の息子がいます。私が子どもの頃から高井戸に住んでいるので、神田川と井の頭線にはいろんな思い出がありますね。どちらも随分変わりましたよ。

神田川は昔、うなぎも獲れていたような川でしたが、昭和40年代は河岸や道路がほとんど整備されて行きました。

たいいていの日用品は高井戸駅周辺の商店で買えましたが、地元では手に入らないような物は井の頭線で渋谷か吉祥寺まで行きました。都心への通勤も井の頭線でした。

勤め先では財務担当でしたので、「世の中の流れとお金」ということに関しては人一倍敏感でした。当時の様々な帳票類も保存してありますが、物価も給料もどんどん上がって行くのがわかります。まだまだアナログの時代でしたから、実際に巨額の現金を手で扱っていましたね。極度に神経を使う平日とは逆に、休みの日には子ども達と神田川周辺でのんびり自転車に乗ったり、散歩をしたり。

それにしてもあの頃は日本も私も何もかもが正に「急成長の時代」でした。結婚をして家族ができ、子どもが増え、仕事も忙しくなって給料やボーナスがどんどん上がる。一人の

## 温故知新 昭和40年台に学ぶ【社会人編】

---

時間には趣味のクラシックを聴き、カメラの手入れをし、鉄道旅行のプランを立てる。そんな当時の平均的サラリーマンの生活を謳歌していました。右肩上がり豊かになって行く日本。それでも気持ちにはどこか余裕がありました。今ほど過度に「スピード」が要求される時代ではなかったような気がします。

投稿：蜂巢成昭

(昭和41～42年・当時29～30歳)

－掲載日・2011年9月15日－

### DATA

取材：区民投稿

撮影：区民投稿

掲載日：2011年09月15日